



アコースティックバンド「テノヒラ」のボーカル 愛南町出身の kiku さんがつづるふるさとエッセイ

— あいなん音故地新 —

カッコイイ大人たち

先日、年下の女の子と食事をする機会があった。年下といってもそんなに歳が離れているわけではなく、『同年代』と言ってもおかしくないほどの差。

たわいもない話から家族の話、仕事の話、そして将来の話になったとき、彼女が『歳をとりたくない』『歳をとるのが怖い』って言う。そうか、そうか、と彼女の話の頷きながら聞いて、その日は別れた。私はそんな風に思ったことが一度もない。特にここ最近は50代になったら何ができるだろう、60代はどんな人間になっとるだろう、とワクワクするくらい。そのために今しておきたいことがたくさんあって、一日があっという間で困るくらいや。

そのことについて深く考えてなかったけど後日、年上の友人とご飯を食べてたときに答えが見つかった。私の周りにおける年上の人たちが素敵ばかりやからや。何にも縛られず、甘えず、自分の足でしっかりと立って、日々を生きて暮らしてる。一言でいうと『カッコイイ』。重ねてきた経験が言葉や仕草から滲み出る。こんなふうになれるなら、怖くなんかないやろう？ 私はまだまだやな。年下の友人に歳を重ねるの、怖くないやーん！って思ってもらえるくらいにいつかなりたいな。

(テノヒラkiku)



御荘文化センター図書室より

“10月の新着図書ピックアップ”の紹介

【児童書】

『こどもせいきょういくはじめます』

フクチ マミ 他(著)

KADOKAWA(発行)

「おうち性教育はじめます」シリーズ第3弾。小学校低学年から読める性教育入門書です。4つのプライベートパーツ、体の変化、いいよーとイヤだよ、安心できる大人って？などのテーマが分かりやすくコミックにまとめられています。最終章には、保護者向けお悩み相談も収録され、これからの時代に必要な考え方を大人も一緒に学べます。



【随筆】

『文学は何の役に立つのか？』

平野 啓一郎(著)

岩波書店(発行)

著者の過去7年間にわたる文学論、芸術論をまとめたエッセイ集。文学は、私たちの人生や社会に対して、どんな意味があるのか。森鴎外、ドストエフスキー、大江健三郎、瀬戸内寂聴、ゲルハルト・リヒター、ル・コルビュジエなど、先人たちの作品に触れながら、芸術、社会へと多岐にわたる思考の軌跡をたどり、文学の力を根源から問う。



御荘文化センター図書室では、毎月「御荘文化センター図書室だより」を発行しています。

図書室だよりを通じてピックアップ図書以外の新着図書情報やそのほか新しい情報を皆さまに発信しています。町のホームページにも掲載していますので、ぜひご覧ください。



愛南町
ホームページ